


第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	消防水利施設整備事業			事業番号	18-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	消防本部	和田 健一郎	警防救急課	川口 康彦	

計 画 (Plan)

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	8	暮らしの安全を守るまちをつくる	
		施策	18	迅速で適切な消防・救急体制の充実	
予算事業名	消防水利施設整備事業				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務	<input type="radio"/> 法定受託事務	(選択してください)→	法令上の位置づけ	義務づけ規定がある
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	消防法第20条・消防水利の基準				
国・県の計画等	国道246号バイパス・県道603号線整備事業に伴う防火水槽の補償		計画期間		
関連個別計画	消防水利施設整備計画		計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	今後の防火対象物等の情勢を注視しながら、消防水利の脆弱地域に消火栓又は耐震性貯水槽を整備します。				
目的 (何をどうしたいのか)	消防水利施設整備計画に基づき、消防水利の脆弱地域に消火栓及び耐震性貯水槽を整備します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	住民の安心・安全の確保と被害の軽減を図ります。				
事業内容 (手段、手法など)	・市内の消防水利脆弱地域に消火栓を計画的に整備します。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	消火栓整備	1基整備	1基整備	1基整備	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
	消防水利施設整備計画に基づく消防水利整備箇所数	1,032カ所 (平成29年度)	平成30年度 1,033カ所 (消火栓1基)	令和元年度 1,034カ所 (消火栓1基)	令和2年度 1,035カ所 (消火栓1基)


 事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	消防水利整備計画に基づき、消火栓1基を整備し消防水利脆弱地域の解消を図る。					
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外					
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	神奈川県企業庁水道局厚木営業所		
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先			
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容			
実施結果	項目	年度				
		平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	消火栓整備	1基整備	1基整備	1基整備		
実施した取組の内容	消防水利整備計画に基づき脆弱地域に消火栓を1基設置					
目標の達成状況	【指標名】		年度			
	【現状値】		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	消防水利施設整備計画に基づく消防水利整備箇所数		1,032カ所 (平成29年度)	1,033カ所 (消火栓1基整備)	1,034カ所 (消火栓1基整備)	1,035カ所 (消火栓1基整備)

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)		1,526 千円				1,381 千円				1,432 千円				
	内訳	国県支出金 ①		1,097 千円				690 千円				千円			
		地方債 ②		0 千円				0 千円				千円			
		その他特財 ③		0 千円				0 千円				千円			
		一般財源 (a)-①-②-③		429 千円				691 千円				1,432 千円			
	国県支出金の内容														
	その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無				前回の改定時期							
		その他													
	人件費	正規職員		0.04	人	340	千円	0.04	人	348	千円	0.04	人	344	千円
		その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)		0.04	人	340	千円	0.04	人	348	千円	0.04	人	344	千円
	トータルコスト (a)+(b)		1,866 千円				1,729 千円				1,776 千円				
	単位当たりコスト	対象数	定義		市民	単位	市民		単位	市民		単位	市民		単位
			対象数		102,416	人	102,171	人	102,046	人					
総事業費 / 対象数		18	円	17	円	17	円								

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	計画通り進めることが出来ました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	他市とは比べられませんが、国の示す「消防水利の基準」に基づき、本市の水利現況を勘案し、市内の消防水利脆弱地域の内、消防水利からの距離、消防対象物及び地勢等を考慮し、緊急性と重要性から必要な場所に消火栓を設置することが出来ました。(伊勢原市の充足率は90.5%)
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	災害に強い安心安全なまちづくりのため、脆弱地域の整備が進んでいます。今後も市民の生命・身体及び財産を災害から保護、防除するため着実な整備が必要です。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	適正な地域に設置が進んでおり、消防水利脆弱地域が減少し、充足率の向上に繋がっています。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	今後も国の示す「消防水利の基準」に基づき、本市の水利現況を勘案し、市内の消防水利脆弱地域の内、消防水利からの距離、消防対象物及び地勢等を考慮し、緊急性と重要性から必要な場所に消火栓を設置していきます。
令和3年度 of 取組方針	令和3年度は、市内の消防水利脆弱地域の内、消防水利からの距離、消防対象物及び地勢等を考慮し、緊急性と重要性から必要な場所に消火栓を2基設置します。うち1基は大山街道(新道)の給水管工事に伴って将来性等を考慮した水利整備です。
所管部長による総評	大規模地震災害時における消火活動に必要な消防水利を確保するため、消火栓や耐震性貯水槽の整備は必然であり重要です。 企業庁水道営業所の工事計画変更により、消火栓の整備が当初計画より1基減となりましたが、引き続き、消防水利の脆弱地域解消に向けた計画的な整備を継続する必要があります。